

マルチメディアオーサリングシステム MediaDesc (4)

3F-7

— テンプレートライブラリ —

佐藤 貴美 谷川 由紀子 田口 大悟 西野 篤

NEC 情報メディア研究所

1 はじめに

MediaDesc シーンエディタは、WYSIWYG 編集を基本とした簡単な操作で、高品質なマルチメディアアプリケーションの作成ができる。筆者らは、MediaDesc の主要ターゲットであるビジネスプレゼンテーションに対してスタイルテンプレートを作成し、ライブラリ化を行った。ユーザはライブラリを利用することで、文字色やエフェクト等視覚的デザインにとらわれることなく、目的に応じた最適なプレゼンテーションを作成できる。本稿では、ビジネスプレゼンテーションの要件とライブラリの設計指針及び構築について述べる。

2 ビジネスプレゼンテーションの要件

プレゼンテーションの作成では、1)メッセージを正確にわかりやすく受け手に伝えること、2)文字の大きさ・レイアウト等全体を通してイメージを統一すること、3)用途に応じたプレゼンテーションのスタイルにすることが必要である。3)の「用途」には、プレゼンテーションの目的と伝えたい内容が含まれる。説得力ある効果的なプレゼンテーションをするには、まず用途と実施場面、対象(受け手)を考慮し、プレゼンテーションに反映させる必要がある。例えば、顧客への製品紹介プレゼンテーションでは、「受け手に製品を紹介し、製品を印象づけ啓蒙する」が目的となり、印象が残りがつ説得力あるスタイルが求められる。一方、同じ製品紹介でも展示会では「受け手の興味を喚起、購買意欲を促す」が目的となり、エフェクトを利用したインパクト重視のスタイルが求められる。このように用途に合わせたスタイル、つまり文字、背景、配色、

レイアウト、エフェクト全てを考慮し、それらを効果的に組み入れたテンプレートを作成する必要がある。

3 設計指針

上述した要件をふまえて、ビジネスプレゼンテーション用スタイルテンプレートの設計指針を述べる。指針では、プレゼンテーション全体で統一した効果を出すため、以下の規定を設けた。

(1)文字：文字フォント種類、サイズを限定しプレゼンテーション全体で統一する。

(2)背景：プレゼンテーションのイメージを色やデザインから印象づけられる(例えばクオリティの高い、新鮮な感じの)背景を作成する。目立ち過ぎるデザインや、目を疲れさせる背景色は避ける。

(3)配色：配色は背景色と合わせて見やすい色、重要な情報には強調色、情報をより明確にするためタイトルと本文の色は異なる色にする等考慮し、バランスよく設計する。色の乱用は受け手のメッセージ理解を妨げるので避ける。

(4)レイアウト：タイトルや内容を表示する位置は、全画面で統一し、見やすいレイアウトにする。また「タイトル」や「説明テキスト」といった画面に含まれる構成要素を決めておく。

(5)エフェクト：用途に合わせて効果(視覚効果、BGM、効果音)を使い分け、オープニング、セクション、場面展開等、意味のある画面に対しては、規則性を持たせる。乱用は避ける。視覚効果と併せメディアの提示順は、視線の流れを考慮し画面左上から右下方向で提示するように設計する。

4 ライブラリ構築

以上の設計指針に基づき、デザイナー、管理職、技術者らの評価や経験を取り入れ、ライブラリの構築を以下の手順で行った。

(1)プレゼンテーションの分類：2章のビジネス

プレゼンテーションの要件をふまえ、プレゼンテーションの種類を、目的と内容(用途)・実施場面・対象の視点から、それぞれ1)紹介型、2)提案型、3)説明型、4)報告型、5)教育型に分類した。

(2)背景の作成：分類したプレゼンテーションから推定される基本イメージ(画面の印象)を決定し(表1)、基本イメージをもとにデザイナーが背景約50種類を作成した。例えば、製品紹介プレゼンテーションの場合は、好印象を持ちかつ落ち着いたイメージで作成し、色合いは灰色系や青色系、デザインはシックな背景とした。

種類	基本イメージ	キーワード
紹介型	印象に残りかつ好感を抱かせるイメージ	シックな落ち着いた
提案型	期待感を醸成すると共に緻密性・堅実性を感じさせるイメージ	進歩的な上品な
説明型	新鮮さ、セシよさに加えて、堅実性と大胆さを兼ね備えるイメージ	ダイナミックなシックな
報告型	誠実さ・緻密性を感じさせるイメージ	合理的な洗練された
教育型	学習への集中を阻害しない落ち着いたイメージ	まじめな堅実な

表1 種類別基本イメージ

(3)レイアウトパタンの抽出：プレゼンテーションで使われる代表的な画面(表紙・目次・本文等)と、その画面の構成要素(タイトル・説明テキスト、図等)を決定した。画面パターンは約10種類抽出した。

(4)構成要素の属性決定：プレゼンテーションの種類と(2)で述べた基本イメージ及び背景を考慮しながら、(3)で確定した各構成要素の属性値を決定した。文字の構成要素、「説明テキスト」や「タイトル」には、文字属性値のフォント種類・サイズ・イタリック、ボールド、箇条書きに利用する行頭形状(●/◆/・)を設定する。文字以外は、影・枠・縁取り等の飾りがある。構成要素の属性と併せて色属性についても、文字色・タイトル色・影色・行頭形状の色等を背景の色合いをもとに、約20種類(配色セット)作成した。

(5)エフェクトの設定：視覚効果の利用方法は、一般的な規定がないため、今回は筆者らの経験や、これまで作成したプレゼンテーションを参考に、表紙画面ではフェード、通常の画面ではワイプとフェードを使用した。メディアの提示順は、一番目にタイトル、

二番目以降左上から右下の方向に従い設定した。

図1は、設計したライブラリの一部レイアウトと構成要素の属性値、使用する背景の例である。図2は、MediaDesc シーンエディタで、テンプレートをを用いて作成した製品紹介プレゼンテーションの画面例である。

レイアウト	用途	紹介型：製品・システム・技術紹介用		
		構成要素	属性値	エフェクト
表紙	表紙	タイトル	ゴシック/40pt/標準/影付き/左揃え	フェードイン/フェードアウト 提示1
		サブタイトル	ゴシック/24pt/標準/中央揃え	フェードイン/フェードアウト 提示2
目次	目次	タイトル	ゴシック/40pt/標準/影付き/左揃え	右ワイプイン/エフェクトなし
		項目1~3	ゴシック/30pt/標準/左揃え	下ワイプイン/エフェクトなし 提示2、提示3、提示4
		説明テキスト	ゴシック/30pt/標準/左揃え	フェードイン/エフェクトなし 提示1
本文	本文	タイトル	ゴシック/40pt/標準/影付き/左揃え	右ワイプイン/エフェクトなし 提示1
		説明テキスト	ゴシック/30pt/標準/左揃え	フェードイン/エフェクトなし 提示2
本文	本文	タイトル	ゴシック/40pt/標準/影付き/左揃え	右ワイプイン/エフェクトなし 提示1
		説明テキスト	ゴシック/30pt/標準/左揃え	フェードイン/エフェクトなし 提示2
本文	本文	図	外部データ	フェードイン/エフェクトなし 提示3
		図	外部データ	フェードイン/エフェクトなし 提示3

図1 製品紹介ライブラリ構成の例

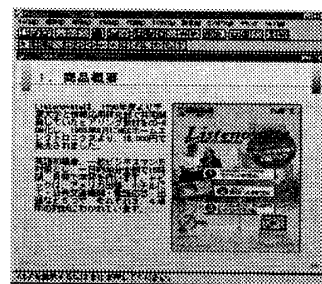


図2 テンプレート利用画面

5 まとめ

MediaDesc のテンプレートライブラリ設計指針と構築について述べた。今後は、用途別に効果音やBGMを組み入れたテンプレートの追加、及び実装したライブラリの評価・検証を行う予定である。またリンク情報を含むテンプレート機能の拡張に併せて、プレゼンテーション構造(ストーリー)のテンプレート化の検討も行う。

参考文献

- 田口,田中,CALOINI,矢野尾."マルチメディアオーサリングシステム MediaDesc(3)", 第52回情報処理学会全国大会, 1996.3
- 富士ゼロックスドキュメントマネージメント推進室."プレゼンテーションの説得技法", 日本経済新聞社, 1989
- 富士ゼロックスD推進グループ/コアデザイン制作部."チャート化とレイアウト", 日本経済新聞社, 1991